



妊娠中の方へ



なぜ、妊娠中に歯医者に行かないといけないのか？それは、生まれてくる大切な赤ちゃんを虫歯で苦しめたくないからです。

実は生まれたばかりの赤ちゃんのお口の中には虫歯を起こすバイ菌はほとんど見つかりません。『虫歯は細菌に感染して起こる病気』ですから、虫歯菌がないと虫歯にならないのです。

では、どこから虫歯菌はやってくるのでしょうか？

赤ちゃんに触れ合う機会の多いご家族のお口の中の虫歯菌が赤ちゃんに移っているのです。

「虫歯菌が移る？」

「はい、うつるんです！」

口うつしで食べさせたり、親の箸で食べさせたり・・・「えっ、そんなことで・・・」と思うようなことで移ってしまいます。主に育児をされているお母さんからの感染が多いので、『母子感染』と呼ばれています。

ですから、私たちは虫歯菌が母子感染しないように妊娠中から虫歯予防をし、生まれてくる赤ちゃんに虫歯になりにくいお口をプレゼントするお手伝いをしたいと思っております。

妊娠中は、今まで小さかった虫歯が大きくなったり、歯ぐきが腫れやすくなったりします。

また、つわりなどで歯磨きが十分できない場合もあります。

なぜなら、妊娠するとホルモンの変化により唾液の酸性度が高まったり、味や好みの変化によって甘いものを食べる機会が増えるなど、お口が虫歯菌に感染しやすい環境になるからです。





Q & A



Q、いつ治療しても大丈夫ですか？

治療は妊娠中期（5か月～8か月）であれば、ほとんどの方が問題なくできます。妊娠初期・妊娠後期は基本的に応急処置のみ行います。

Q、来院するのに必要なものはありますか？

必ず母子健康手帳を持参してください。妊娠中の歯の状態のページをチェックいたしますし、あなたの妊娠中の健康状態がよくわかるので助かります。

Q、レントゲンは赤ちゃんに影響ありませんか？

どうしてもレントゲンが必要な場合、基本的には小さいフィルムのもので撮影します。全体がうつるパノラマ写真が必要な場合もありますが、防護エプロンを着用していただきますので、赤ちゃんへの影響はありません。さらによしむら歯科医院では、デジタルX線を採用しておりますので、従来の1/10～1/2の放射線量ですみますので、ご安心ください。

Q、麻酔は赤ちゃんに影響ありませんか？

歯科で行う麻酔は普通局部麻酔ですので、通常量の使用では母子ともに全く影響ありません。

Q、投薬はしますか？

原則として投薬はしません。ただし、痛みや状態がひどく、我慢することがかえってお腹の赤ちゃんに悪い影響を与えられられる場合は、産婦人科の先生と相談した上で投薬することもあります。

